

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2772201790		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホームみのり苑		
所在地	大阪市生野区巽中2-14-1		
自己評価作成日	平成 26年 8月 5日	評価結果市町村受理日	平成 26年 9月 19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvsoCd=2772201790-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 8月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気大切に、ゆったりとした時間を一緒に過ごせるようになっていきます。 ・入居者一人ひとりの気持ちや考え方を大切にして、一人ひとりが自分らしく過ごせる場となるように接し方を考えています。 ・ご家族と信頼関係が築ける様に電話や面会時に近況報告などを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>在宅福祉の拠点として、地域との強い結びつきを持つ社会福祉法人が、「明るく健康的で豊かな老後」を目指して、養護老人ホームに併設して開設し、10年目を迎えます。ホームで飼っている鳥の世話やプランターでの野菜作りなど、楽しみと和めるような環境作りをしています。管理者は利用者6人をも一つの家族と考え、職員は自分の親を預けられるようなところでありたいと思いつつ、利用者一人ひとりに対し、ゆっくり丁寧にとの思いを大事にしながら優しく接しています。近隣にある同法人の施設や在宅介護支援センターなどと連携を図りながら、昨年、グループホーム内で共用デイサービスを開始したことにより、認知症デイサービスを利用する利用者との関係作りなど新たな展開があります。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> <ul style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの方針を明文化しホーム内に掲示している。 職員面談の機会などでスタッフへも方針について伝え、日々の疑問なども話し合いながら対応できている。	理念は、開設時に職員の意見により、利用者一人ひとりにゆっくりした時間を持ってもらいたいとの理想を込めて「明るく健康的で、豊かな生活をしていただく為の場所を提供します」としました。理念をホーム内に掲示し、職員との面談時にも伝えて、再確認と再認識をしながら日々のケアに生かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で毎月行われている異サロン、異喫茶などへ参加している。また法人の開催する納涼祭へは地域からも多数の来苑があり盛り上げて頂いている。 玄関前のベンチや散歩に出掛けた時は職員の方からも積極的に挨拶をしており、顔馴染みの関係が築けるように努めている。	自治会活動が盛んな地域の自治会に加入しています。地域で毎月定例化している、「サロン」や「喫茶」に参加する他、地域の小学校で行われる七夕やクリスマス会の案内を得て参加しています。年に一度、地域の保育園児による訪問があり、卒園する園児が壁絵や手作りのプレゼントを持参して、一緒に楽しみながら過ごしています。近くの公園に散歩や花見に出かけた際、地域の人と会話を楽しみ、交流をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	グループホームとしては活かす事が出来ていないと思われる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、入居者の状況や活動報告を行っている。ご家族からも意見を頂戴する事があり、役立てるよう努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員、地区社会福祉協議会会長、利用者家族、管理者、計画作成担当者が参加しています。会議メンバーの都合を考慮しながら、偶数月に定例で開催しています。利用者の家族には順番で出席を依頼し、1年で利用者の家族全てが一度は参加できるように案内をしています。今後は、自治会や老人会、民生委員など、多くの参加を定着化する予定です。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を行っている。	市の老人福祉施設連盟のグループホーム分科会や区のグループホーム・小規模多機能連絡会に参加し、研修や意見交換に参加しています。その際には、市や区の担当職員とも会い、顔馴染みになっています。しかしながら、他区から入居した利用者の事故報告は郵送しており、担当職員と連携を図る機会が少ない状況です。	事故報告書は、できる限り担当課へ直接届けるようにして、その際に担当職員から情報を得たり、相談したりするなど、関係を構築されてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては入居者の安全を考え、施錠していることが多いが状況を見て出来るだけ解錠するように心掛けている。 身体拘束についての勉強会や研修を定期的に行い、具体的な身体拘束の行為について全職員が知っておくようにする必要がある。	玄関の施錠に関しては、利用者の安全確保を第一に考え、やむを得ず施錠をしています。しかし、利用者の希望や思いを考慮し、職員は利用者と共に仕掛ける等の対応をしています。施錠による閉塞感については、前回の外部評価以降、運営推進会議において、参加者から意見をえた経緯があります。	ホーム周辺の交通状況、利用者の状態を勘案しながら、開錠に関する検討を継続してはいかがでしょうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとり意識しているが、研修など学ぶ機会が少ない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が少なく、活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所からの一方的な説明にならないように確認しながら行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議により地域やご家族の方からの意見を聞く機会があり、ご家族とは面会時以外にも電話連絡で近況報告など行っており、ご家族の思いや希望にそえる様に努めている。</p>	<p>利用者家族は、少なくとも月に1回訪問があり、その際に利用者の状況を伝え、家族の意見や意向を確認しています。また、電話でも、要望等を確認しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員個々が定期的に運営に関する事を伝える機会は少ないが、事柄により管理者へ提案している事はある。基本的には職員からの意見、提案があればまず主任へ伝え、その都度代表者や管理者へ伝え反映していくようにしている。</p>	<p>職員は自己評価を実施しており、年に2回の面談や月に1～2度のミーティング、日々の中で意見を出せる機会があります。ミーティングの内容は、議事録に残し、全職員が閲覧しています。職員より、カラオケの設置や古くなったテーブルを新調するよう提案があり、すぐに購入する等、運営に反映させています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年2回職員面談を行い意見や希望を聞いている。その際に職員個々へ改善してもらいたい事などを伝えている。職場環境や条件の整備については今後も改善していくことが必要と思われる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った内容の外部研修を受けるように勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉施設連盟グループホーム分科会や生野区グループホーム・小規模多機能連絡会を通じて研修、意見交換を行いサービスの質の向上を目指している。研修等で個人的な交流も増えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や考えていること等を普段の会話から感じ取るように心掛けています。信頼関係を築くことが安心して生活して頂けることに繋がると考え、利用者と職員が1対1で話す機会も出来るだけもっている。ただし、知り得た情報を書き留めていく事が出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にはご家族の希望や不安などを聞き取りしている。また、家族との関係は大切な事であると理解し、面会に來られ時には職員から積極的に話しかけ入居者の様子などを伝えている。ご家族とも話しやすい関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービスの説明や当事業所についての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯物、テーブル拭き、花の水やり、鳥の世話など入居者一人ひとりの出来る事を見つけ手伝って頂いたり、編み物や料理のやり方を教えて頂いたりして共に支えあう関係になるよう努めている。また、ご本人が自分で出来ることは極力介助を行わず見守るように気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、受診をお願いし、その際の電話で本人の近況や体調・気分をお伝えしている。面会時にも同様に近況をお伝えし、本人についての情報をお聞きするなどしている。 また、入居者に関わる事をスタッフだけで決定してしまわないように気をつけご家族へも確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元々住まわれていた場所などヘドライブ等で出掛けたり、田舎の写真などを見て過ごす事がある。病院や薬局などでいつも会う方と話すこともある。	利用者と家族の共通の知人が、利用者家族を車で送る等、訪問の援助をしており、職員も家族や知人が来訪しやすいよう工夫しています。また、家族が孫を連れて訪問したり、家族間で順番にホームに訪問したりすることもあり、職員は歓迎すると共に、馴染みの関係を継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲み一緒に洗濯物たたみを手伝われたり、玄関のベンチで談笑されていることがある。数人で一緒に散歩へ出掛けることもあり、行事や活動を通して利用者同士が関わり合う場があもてるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院中の荷物の預かりや、介護認定更新に際して相談を受けることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人へ尋ねたり、ご家族から聞く事で以前の暮らしや性格をふまえて職員間で相談している。また、日々の生活の中で、その方が発した言葉や表情・行動などから、その方の思い・希望・生活スタイルを把握できるように努め本人本位となるように検討している。	入居時に、家族から利用者の生活歴を確認しています。職員は、利用者と日々関わる中で気付いたことや、確認した情報を連絡ノートに記入し、会議でも情報の共有を図っています。意思疎通が困難な利用者の思いや意向は、家族の来訪時に協力を得ることで思いを汲み取る工夫を行い、把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのケアチェック表や暮らしの情報シートを作成し把握に努めている。 本人や家族との普段の会話からも習慣など色々な情報を取り入れられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さりげなく見守りを行うことを大切にし、自分のペースで過ごしてもらえるように気をつけている。本人の行動・表情・会話などに気を付け、心身状態の変化の把握に努めている。 スタッフ同士で入居者に関する情報交換を行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のグループホーム会議をはじめ、日頃から気付いた事、問題点などがあれば職員間で話し合い共有している。 ご家族とは面会時や電話連絡にて現状を伝えながら相談している。	介護計画書とモニタリングで確認した内容を、記録に残しています。月1回ホームの会議でカンファレンスも行い、介護計画書に反映しています。モニタリングでは、日々関わる職員から、利用者の様子や意見を出してもらうようにしています。計画書は概ね3か月に一度見直しを行っています。6か月に一度、利用者のアセスメントも実施しており、変更した計画書は、家族の来訪時や郵送等で同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、いつもと違った変化などについて個別に記録している。 申し送りや連絡ノートを活用し注意事項などについても職員間で共有しやすくなっている。記録の積み重ね、情報の共有を介護計画へ活かしている。 こまめに記録できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>要望に応じ柔軟な対応を心掛けて行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>必要に応じて協力をお願いしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望、了解をもらいホーム近くの医院をかかりつけ医にされている方が多いが、入居前からの医院を継続されている方もいる。</p> <p>特変時や必要のある際には受診の付き添いを行い、電話にて相談も行っている。付設診療所の医師へも必要に応じ相談している</p>	<p>本人や家族の希望により、入居前からかかりつけの医療機関へ受診を継続することができます。近隣の医院を、かかりつけ医にしている方もいます。併設する診療所の嘱託医より週1回診察があり、週5回看護師による健康管理が行われています。歯科への受診は、併設施設への往診日に合わせて受診しています。夜間や緊急時などは、嘱託医に連絡し、相談や指示を仰ぐ等の体制を構築しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と必要に応じて相談・報告し連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、面会や電話連絡にて本人の状態把握に努めている。 病院側の担当者からも随時、連絡を頂くことが出来ている。 入退院についてはかかりつけ医とも情報交換し連携し対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態の変化、重度化した際には、その都度家族との話し合いの機会をもつようにしている。 特に何らかの医療的な対応(点滴など)が常に必要となった際には家族・かかりつけ医を含めて今後について検討するようにしている。	現在、看取りは行っていませんが、入居時に重度化した場合の対応について、「できること」「できないこと」を家族に説明し、理解を得ています。状態が変化し、重度化した際には、家族、医師を交えて話し合う機会を持っています。看取りについて管理者は、今後どのように対応していくのかを課題として、積極的に取り組んでいく予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応時のマニュアルを作成し、応急手当などの書面と併せて緊急時に備えている。 急変事の対応については個人差があり、定期的に勉強会が必要と思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。 職員は非常口、消火器の場所を把握できており、倉庫には非常時備蓄品を準備している。 スタッフ全員が避難対応を行えるか、地域との協力体制が築けているかという事に関しては不十分で改善が必要である。	火災時のマニュアルを作成しています。併施設設と合同で、年2回消防署立会いで避難訓練を実施しています。職員は、避難経路や消火器等の設置場所について把握しています。非常災害時の備蓄について、併施設設とホームそれぞれに保管しています。	年2回の避難訓練を実施していますが、早朝、夜間等の人手の少ない時間帯を想定した訓練を実施し、災害時の避難誘導をより安全で、確実なものにすることが望まれます。また、地域住民や近隣の協力が得られるよう、運営推進会議で参加者に周知するなど、より多くの方に協力が得られるよう、検討してはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの気持ちを大切にしプライバシーを損ねないような言動を常に心がけて対応している。 年長者の方と接しているという意識を持って言葉遣いに気を付けている。	接遇の基本を、言葉遣いに重点を置いて日々のケアを行っています。特に、排泄支援時の声かけは他者に伝わらないように配慮しています。不適切な言動が見られた場合には、その都度注意を促し、年長者に対して敬意を払った丁寧な対応が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で一人ひとりの声に耳を傾け本人の思いを大切にしている。 選択肢などを分かりやすく説明し自己決定や希望を導くような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの様子を見守りながら、本人のペースで生活ができるように支援している。業務より利用者の事を優先するように気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに家族・職員によって衣替えを行っている。毎日同じ服にならないように配慮し、自分で着る服を選んで頂いている方もいる。整髪など身だしなみは居室の洗面台で行っており、散髪は本人や家族の希望を確認しながら定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のおやつ作り・月2回の食事作りでは食材を切る、皮むきなど出来る事を一緒に行っており、菜園で育てたきゅうりやなすびを使って食事作りに参加して頂く機会を作っている。 配膳や片付け等も無理のない程度に手伝って頂いている。	食事は、併設施設から調理されたものをホームで盛り付け、配膳しています。ごはんと味噌汁は、ホームで作っています。利用者は、食器洗いやテーブル拭きなど、できることをしています。月に2回食事作り、月に1回おやつ作りなど、利用者と一緒にいきます。買い物から準備、調理など、利用者と共に行っています。庭の菜園で採れた季節の野菜なども調理し、献立の一品として食卓を飾ります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量・水分摂取量を記録し把握に努めている。摂取量の少ない方には個々に補食などを購入して頂き対応させて頂いている。 食事形態にも配慮しスタッフにより刻み食を用意している。個々に好きな副菜や飲み物を購入していただいている。また、必要に応じて食事介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には入浴時や就寝時にポリドントを使用し洗浄して頂いている。ブラッシングの出来る方へは声掛けや介助を行い、一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりに排泄チェック表を作成し排泄状況の把握に努めている。トイレ誘導の必要な方へは排泄チェック表を確認しながら、さりげなく誘導が出来るように気を付けている。紙パンツや尿取りパットの使用については状態に合わせて検討し決めている。日中に関しては全員がトイレを使用されている。	利用者の重度化により、立つことや歩くことが難しくなっていますが、排泄チェック表により、パターンを把握して、トイレでの排泄を促しています。利用者一人ひとりの状況に合わせて、リハビリパンツなどの使用を考慮しています。排泄介助時には、必要に応じてシャワーボトルの使用や清拭、シャワー浴などにより清潔保持をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取(野菜ジュース等)を勧め、体を動かしてもらえるように働きかけている。また、便秘が続く時には個々に処方されている下剤の量を調整し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は決めておらず、希望の時間を聞いたり個々の体調や気分を考慮し、タイミングをみて入浴して頂いている。現在のところ2、3回/週のペースである。	週に2～3回、同性介助で入浴を支援しています。利用者の状態や行事に合わせて、日を変えたり、時間やタイミングを変えています。また、より安全に入浴を支援できるよう、2人体制で実施することもあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	快適に休むことが出来るように 生活習慣や室温の調整に配慮し ている。また、不安等の訴えに は話しを聞くなどし安心して眠 れるように支援している。本人 の様子をみて昼間でもベッドで 休息をとるように勧めるなどし ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	服薬状況・管理表を作成し、服 用している内容が把握できるよ うにしている。副作用について も薬の説明書を作成しており確 認が可能である。症状の変化に ついては様子を見ながら、かか りつけ医などへ相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	洗濯物を丁寧にたたまれる方、 テレビ、散歩、音楽鑑賞などの 好きな方など、それぞれの役割 や楽しみ事があり、職員もその 時間を共有し見守ることで支 援している。押し付けにならない 様に気を付けて、個々に合った 楽しみや喜びのある対応がで 出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物へは入居者と一緒に出掛け、定期的に開かれている地域の行事へも参加出来るように取り組んでいる。外出チェック表を作り、外へ出掛ける事が少ない方の把握にも努めて対応している。 今後は、普段行きにくい所へ出掛ける支援もしていきたいと思う。	外出チェック表に記録をして、利用者毎に外出の状況を確認し、個別に合わせた回数を実施しています。散歩や買い物のほか、花見や地域の夏祭りにも出かけています。利用者が楽しめるよう、デザートを食べに出かけることもあります。利用者の自宅近くにある馴染みの場所へ、出かける支援を検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員が預かっており、買い物の際は職員が支払いを行っている。 自身で財布を持たれている方もいるが普段は使われていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から電話を掛けたい等の希望があれば職員がお手伝いし掛けさせて頂いている。また、本人へ届いた手紙の受け渡しや、電話の取り次ぎを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、明るさ、換気、テレビの音量や番組などに配慮し快適に過ごす事が出来るようにしている。リビングには大きな窓、ソファー、観葉植物、テレビなどがありゆったりくつろげるようになっています。壁にはカレンダーを飾り、一緒に遊べるゲームや音楽等も目の届く所に置いています。また食事の際には出来るだけ陶器の食器を使用し、生活感が感じられる様にしています。	ホームは、養護老人ホームと併設した建物の1階にあり、ホーム専用の玄関から訪問ができます。広いリビングに、利用者が思い思いの場所でくつろぐことができるように、ソファーが置かれています。職員が利用者と一緒に育て、食卓にのぼる野菜がプランター菜園で作られています。利用者が世話をしている錦花鳥の優しく鳴く声が聴こえ、穏やかに過ごせる空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のベンチ、廊下のベンチ、居間のソファーなどがあり、思い思いの場所で過ごす事が出来るようになっている。入居者同士の団欒の場ともなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが使っていた物を持ってこられており、テレビ・椅子・タンス・布団等の馴染みの物を置かれている。入居後にも家族の持ってこられた飾り物やホームで撮った写真等を壁に飾り、その人にとって居心地の良い空間となるように配慮している。	入居前から愛用している、チェストや小さな机を持ち込む利用者もいます。家族の写真、テレビがある居室もあります。掃除が行き届き、利用者毎に思いのままに整えられた部屋になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すり、廊下のじゅうたん等で歩行時の安全面が考えられている。居室内においてもベッドや家具の配置を工夫し安全面を考えている。</p>		